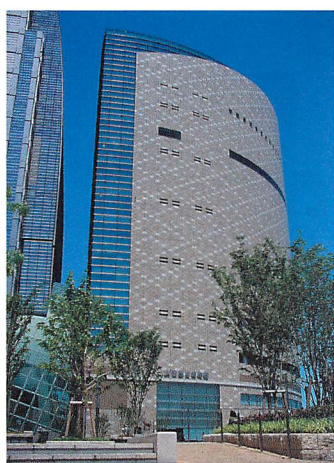


懷徳堂 News Letter

懷徳堂展について

平成22年(2010)、大阪大学は大阪歴史博物館・(財)懷徳堂記念会との共催で「懷徳堂展」を開催しました。

これは、懷徳堂記念会が創立100周年を迎えたのを記念して企画された展示会で、2ヶ月におよぶ懷徳堂貴重資料の展示は初めての試みとなりました。



大阪歴史博物館外観

懷徳堂研究センターでは、展示資料の選定、点検、搬出の準備、大阪歴史博物館での展示作業、期間中の一部資料の入れ替え、撤収作業などに全面的に協力し、無事、展示会を終えることができました。

懷徳堂展を含む常設展の入場者数は、38,425人(一日あたり801人)。このうちの何割かの方は懷徳堂展にお越しいただいたものと思われます。

ご観覧いただきました方、展示作業にご協力いただきました多くの方々に厚く御礼申し上げます。



「懷徳堂展」(8階特集展示室)の様子

○懷徳堂展

期間／2010年10月27日～12月20日

会場／大阪歴史博物館8階特集展示室

○懷徳堂展関係の新聞報道

平成22年11月30日(火) 読売新聞朝刊「懷徳堂精神、再び」

平成22年12月2日(木) 毎日新聞朝刊「懷徳堂を振り返る」「医書や天体模型など」

平成22年12月3日(金) 産経新聞朝刊「大阪町人の学問・道徳精神」「天体模型など50点」

平成22年12月7日(火) 読売新聞夕刊「大阪に息づく『知』の精神」「懷徳堂再興100年資料展や講座開催」

越俎弄筆

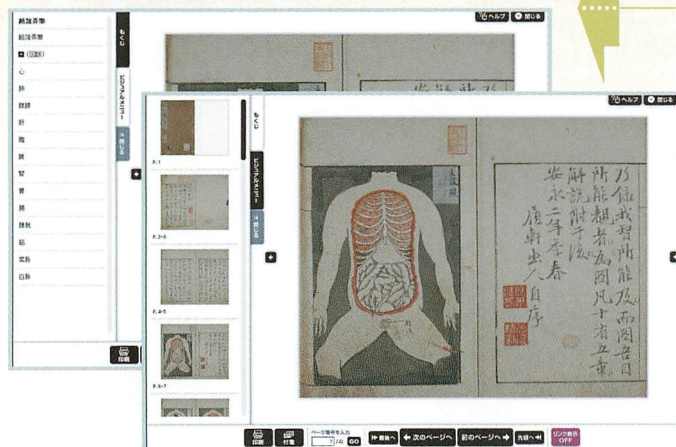
中井履軒が人体解剖図十五葉を彩色筆写し、これに解説を加えた医書(手稿本)です。

「越俎」とは、自分の本分を越えるという意味、「弄筆」とはたわむれに書くという意味です。

本書は、本来、医者の麻田剛立によって執筆されるべきものを、履軒が分を越えて執筆したとの意が込められています。

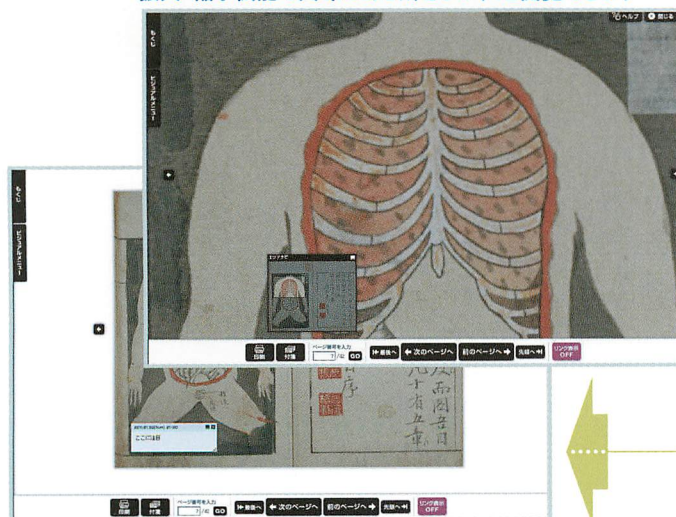
今回、インターネット上にデジタルブック「越組弄筆」として公開し、本をめくるように全ページを閲覧できます。デジタルコンテンツの特性を活かし、画面の拡大、目次やサムネイルから該当章へのジャンプなども可能です。

目次から該当章へジャンプできます



ビジュアルメニューからサムネイル表示をクリックして
必要なページを素早く表示できます

拡大・縮小機能で興味のある所をじっくりと閲覧できます

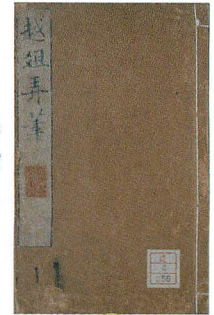


気になる所には付箋を貼ることができます

越俎弄筆

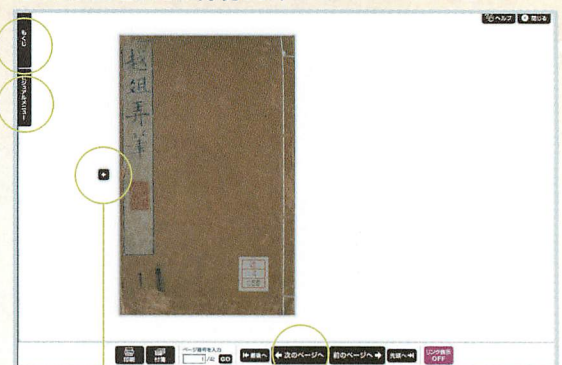
中井履軒(なかゐりけん) (1732~1817)の医書。履軒の手稿本。
数量(冊数) 1冊
外形寸法(cm) 縦24.4×横16.2
情報室文庫図書目録該当頁 国書四三上

自序によれば、本書は、麻田貞房(あだこうらう)が京都府御所江(江)人体の対照図説を行なうための、「傍(わ)かた」として在京都で書目(てきめい)を主として(主眼)としたといふ、この解説を、「解本」、自ら人体図五篇を彩色し、これに解説を添へた。「題詞」と、自分の手と色をいれたといふ。「序言」とはたむけに書き加へたといふ。本書は、本邦図解史上として執筆されたものであるものの、前記に研究に欠けた著者の「傍(わ)かた」から、自ら分るべきところの意図がわがためとして、「解本」の裏面に資料が薄々と貼はることに越え、医学にまで及んでゐることを示す資料である。本書は、平賀正二(一九〇一)に刊行された『麻田貞房の解剖学』(後掲)『麻田貞房の解剖学三』の中に『人間図』『麻田貞房の解剖学』などにも墨写り収められた。



【書誌情報】
『越后弄筆(えっそうひつ)』1冊
中井耀利撰 安永2年 手稿
【寸法】24.4×16.2。紙内、図版は18.5×12.3。本文は18.7×12.4。
【書式】左右双辺、有界、白口、無魚尾の紙を使用、図版は四周単辺、無界、白口、無魚尾の紙を使用、9行21~24字。

冊子のイメージを
そのまま、ウェブ上に再現します



ページをめくるように
閲覧できます



ポップアップ
ウィンドウで注記を
参照いただけます



CONTENTS

聖賢扇

中井履軒が扇面の表に歴代の聖賢や学者の名を朱筆し、裏面にはこれらの人々を酒にたとえて面白く評を加えたもの。たとえば、「孔孟」は「伊丹極上御膳酒」（賞賛にことばなし）と絶賛される一方、懷徳堂の論敵であった荻生徂徠については「鬼ころし」（とても酒とは思えない）と酷評しています。

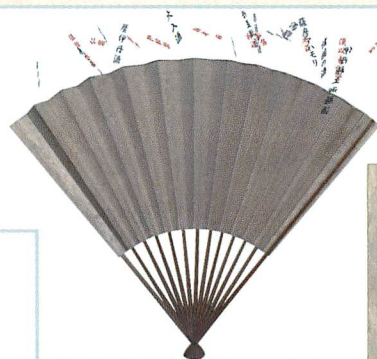
このデジタルコンテンツ「聖賢扇」では、簡単なマウス操作で扇の両面を回転させ、両方の文字を対照させながら閲覧することができます。

聖賢扇

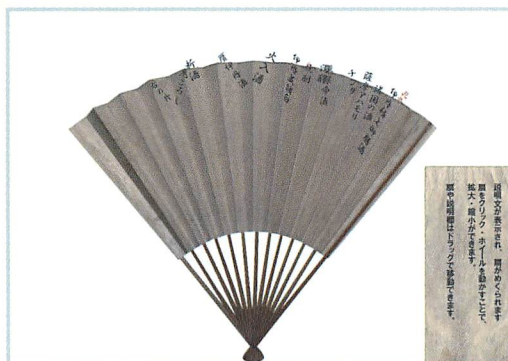
聖賢扇(せいけんおうせん)
関係人物名 中井履軒、中井桂圃(なかいけいふん)
数量(冊数) 1冊
外形寸法(cm) 上弦長94.5 幅16.4

中井履軒が扇面の表に歴代の聖賢や学者の名を朱筆し、裏面にはこれらの人々を酒にたとえて面白く評を加えたもの。原本は失われて存しないが、文政3年(1820)に履軒の子桂圃が写したものが残されており、その裏面の記載は、『懷徳堂17号付録の吉田氏録(はやし)』『懷徳堂水巻絵巻遺物目録』に転記されている。

閲覧する



《オープニング》無地の扇の上から文字が降ってきて、所定の位置に配置されます



扇が表示されます、拡大・縮小・移動が可能です



マウスをクリックすると扇が裏返し、対応する箇所の色がかわくと同時に表裏に記載された内容と解説が表示されます



名前が記載されている所にマウスを当てると色変化します

懐徳堂研究センターの業務

1. 懐徳堂に関わる調査・研究、資料の収集・作成（デジタルコンテンツを含む）
2. 『懐徳堂研究』（年1回定期）、パンフレット、ニュースレター（不定期）等の広報媒体の編集・刊行
3. 懐徳堂研究の総合サイト「WEB懐徳堂（<http://kaitokudo.jp/>）」の管理運営
4. 学内外における懐徳堂資料の展示、講演会などの開催
5. 懐徳堂記念会の事業に関わる資料調査等の協力
6. 本学附属図書館および総合学術博物館の業務に関わる懐徳堂関係資料の調査等の協力

懐徳堂研究センターQ & A

Q 懐徳堂について取材するにはどうしたらよいですか？

A 本センターにお問い合わせ下さい。専任職員は配置されていませんが非常勤職員がいますので、まずはお電話（06-6850-5088）などでお問い合わせ下さい。その内容に応じて、適切な教員・機関をご紹介します。

Q 「懐徳堂文庫」所蔵の貴重資料を閲覧するにはどうしたらよいですか？

A 懐徳堂に関する貴重資料は、一部を除き、大阪大学附属図書館に配置・集中管理されています。閲覧等の手続きについては、附属図書館利用支援課（〒560-0043大阪府豊中市待兼山町1番4号、06-6850-5069〈FAX〉）へお問い合わせ下さい。

Q 懐徳堂の講座を受講するにはどうしたらよいですか？

A 懐徳堂記念会の春秋講座・古典講座は、財団法人懐徳堂記念会が主催しています。問い合わせ・参加のお申し込みは、懐徳堂記念会（<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitokudo/>）へお願いします。

Q 大阪大学21世紀懐徳堂と懐徳堂研究センターとはどう違うのですか？

A 21世紀懐徳堂は、大阪大学が提供する社会貢献活動、「社会学連携」事業を推進する組織です。懐徳堂に特化した事業（教員研究活動）を行っているわけではなく、HP（<http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>）で、大阪大学全体および各部局の社会活動を広報しています。

※その他、詳細は懐徳堂研究センターHPをご覧ください。